

□ 一の 次の各問いに答えよ。

問一 次の傍線部の漢字は正しい読みがなに、カタカナは正しい漢字に改めよ。(楷書ではつきり大きく書くこと。)

- ① 本のサクインから、興味ある文章を探す。
- ② モホウは創造の母であると言われている。
- ③ タイダな生活を改めて規則正しく過ごす。
- ④ 彼女は今、窮地にオチイっているようだ。
- ⑤ 日頃の粗野な言動をツツシまねばならぬ。
- ⑥ 駅舎の人混みにマギれて。見えなくなる。
- ⑦ 妥協を許さない真っ直ぐな性格を有する。
- ⑧ 今回は、暫定的な処置を行うこととする。
- ⑨ お土産に、巧みな細工の民芸品を飼おう。
- ⑩ 彼女の家は、緩やかな坂道を上った所だ。

問二 次の文の()に入る四字熟語はどれか。前後の意味を踏まえて最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

部下の中には、表面では従順に見えても、内心では()の思いを抱く者もいる。

- ア 一蓮托生 イ 呉越同舟 ウ 一知半解 エ 公平無私 オ 面従腹背

問三 『万葉集』には、東歌と呼ばれている東国で作られた民謡風の短歌が収められている。次の歌のうち、東歌にあたる短歌はどれか。ア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 家にあれば筍に盛る飯を草枕旅にしあらば椎の葉に盛る
イ 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな
ウ 多摩川にさらす手作りさらさらに何ぞこの児のここだ愛しき
エ 防人に行くは誰が背と問ふ人を見るが羨しさ物思ひもせず
オ 春過ぎて夏来るらし白袴の衣乾したり天の香具山

問四 平安時代に書かれた次の物語のうち、歌物語と呼ばれているのはどれか。次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 竹取物語 イ 伊勢物語 ウ 源氏物語 エ 落窪物語 オ 宇津保物語

問五 次の文にある傍線部「で」の文法的説明として正しいものを後のア～オから選び、記号で答えよ。
いつまでも健康でいられるのは、毎日の散歩で体を動かしているからだ。

ア 接続助詞「て」が変化したものである。
イ 原因や理由を示す格助詞である。
ウ 断定の助動詞「だ」の連用形である。
エ 動作の状態を示す格助詞である。
オ 形容動詞「くだ」の活用語尾である。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

(中村雄二郎・山口昌男『知の旅への誘い』より)

問一 A・C にあてはまる接続詞として最も適当なものを、次のア～キのうちから一つずつ選び、記号で答えよ。

ア まして イ ところが ウ つまり エ そして オ だから カ そのうえ キ また

問二 傍線部①「おのずと見えてくる」とは、ここではどのようなことになるかと述べているか。文中の語句を抜き出して、二十字以内で答えよ。

問三 傍線部②「視覚の独歩にまかせず」とは、ここではどのような意味で使われているか。最も適当なものを次のア～エのうち

から一つ選び、記号で答えよ。

ア 見ることにだけに頼って対象を認識すること

イ 視覚が一人歩きして対象を見損なうこと

ウ 見ることの独自性に頼らず理解すること

エ 視覚による情報特性が生かされていないこと

問四 傍線部③「そのため」とは、どういうことのためか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア どのようなものを見、どのように書物を読むかという、対象についての読解の在り様そのものが大きく問われるようになったため。

イ 沢山の書物を読みながら、硬直した見方や概念的な見方に囚われているために、対象のもつ豊かな問題性を平板にしてしまいう人たちが少なくないため。

ウ 学問や科学の名において、〈知の探求〉が人々に、どんなに無味乾燥なものと思われるようになっていくことを多くの科
学者たちが気づきはじめたため。

エ 〈現象学〉や〈記号学〉、〈記号表現〉など、硬直した見方、一定の価値判断に囚われた見方を排して事象そのものへ迫る
考え方が重要視されるようになったため。

問五 次のア～エの文のうち、本文の内容と合致しているものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 自ずとものが見えてくるようになるためには、何かの偶然に出会った折に力を発揮する経験が重要であり、日常生活によつて身に付くものではない。

イ 知を探索するときには、一義的なものの見方はやめ、ものが豊かな多義性をもって見えてくるような対象への接し方を身に付けなければならない。

ウ 旅の面白さを味わうためには、綿密な計画を立てた上で、予定外のことにも目を反らさず、計画と違った所にも足を伸ばして幅広く探索しなければならない。

エ 読書をする際には、できるだけ多くの書物を読んで、それまでの硬直した物の見方や概念的な見方を排除し、対象のもつ豊かな問題性に気付かなければならない。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

（吉行淳之介『子供の領分』より）

問一

I にはこの時のAの気持ちを表す語が入る。最も適当な語を次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 苦しい イ 恐ろしい ウ 快い エ 腹立たしい

問二 傍線部①「Bの顔が笑顔のままかすかに強張った」とあるが、Aがそのように思ったのはなぜか。その理由として最も適切なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 従者であるべきAが新しい手袋を嵌めていることへのBの苛立ちを感じたから
- イ 手袋をくれたAの祖母に、今ごろ謝意を伝えていることにBの自責の念を感じたから
- ウ もらった手袋が従者であるAの使い古しであったことへの皮肉を込めた謝意と感じたから
- エ もらっても嬉しくない手袋を嬉しそうに嵌めることへの嫌悪の気持ちがあると感じたから

問三 Ⅱに入る最も適切な語を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 何となく導かれた
- イ やつと我に返った
- ウ そつと慰められた
- エ むしろ救われた

問四 傍線部②「すべての音が吸い取られてしまう時間があつた」とあるが、この表現はどのような効果をもたらしているか。最も適切なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 平穏状態を表現することにより、Bが無事にいることを暗示する効果
- イ 静寂状態を表現することにより、どうなったのかという緊張感をもたらす効果
- ウ 何もない状態を表現することにより、呆然としているAの様子を提示する効果
- エ 音のない状態を表現することにより、後の元氣な姿を対照的に浮き上がらせる効果

問五 傍線部③「反発することなくAの心に収まるのに役立つ」とあるが、この表現を分かりやすく説明したものとして最も適切な語を。次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 地面から離れた場所でのAの存在を認めるための一つのきっかけになったということ
- イ Bの滑稽な格好は二人の温かい友情を築いていくうえで大いに役に立ったということ

ウ 地面から離れた場所ではAは足元にも及ばない存在であることを完全に認めているということ
エ Bの滑稽な格好は冒険のできる男だと気づかせてくれるために必要な条件であったということ

四 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

志賀の僧正、本より（注1）筆箒^{ひらりき}を憎む人なり。ある時、明月の夜、湖上に三船うかべて、管弦・和歌・（注2）頌物の人をそれぞれのせて宴遊しけるに、楽人などその舟にのらんとする時はいく、「この僧正は筆箒憎み給ふ人なり。しかあれば用枝はのるべからず。事にがりなんとす。」とてのせざりければ、用枝、「①さらば打物をもこそ仕らめ」とて、しひてのりてけり。やうやう深更におよぶほどに、用枝ひそかに筆箒をぬき出して、湖水にひたしてうるほしけり。人々見て、「筆箒か」と問ひければ、「②さにはあらず。手あらふなり」とこたへて、なにとなき体にて居たり。しばらくありて、つひに音取り出したりければ、かたへの楽人ども、「③さればこそ言ひつれ。a よしなき者をのせて、興さめなんとす」と色をうしなひてなげきあへるほどに、その曲めでたいたへにしてしめたり。聞く人みな涙おちぬ。b としごろこれをいとはるる僧正、人よりことになきに言はれるは、「聖教に、筆箒は迦陵頻の声を学ぶといへる事なり。この事を信ぜざりける、口惜しきことなり。いまこそ思ひしりぬれ。④今夜の褒美は他の人に及ぶべからず。用枝一人にあるべし」とぞ言はれける。この事をのちまで言ひ出して、なかれけるとぞ。（『古今著聞集』より）

（注1） 筆箒Ⅱ竹製の管楽器

（注2） 頌物Ⅱここでは漢詩文のこと

（注3） 迦陵頻Ⅱ極楽浄土にいると言われる鳥

問一 破線部 a・b の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア～エのうちから一つずつ選び、記号で答えよ。

a よしなき

のアゝエのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 様々な管弦の中でも箏篋の音が最もすばらしく、今日の出し物の中では褒美を取らせるに相応しいと思ったから。

イ 箏篋奏者の用枝が仏教に対する信心が深く、その音色の美しさは他の楽器の比ではないと気づかせてくれたから。

ウ 箏篋の音色は、迦陵頻の声をまねたものであり、仏の教えにかなうものであると気づかされたことに感謝したから。

エ 自分が音楽に対して無知であったことを箏篋の音色によって用枝が教えてくれたことに報いる必要があると考えたから。